

第 4 章 教育内容・方法・成果

4) 成果

1. 現状の説明

(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

【評価の視点】

- ・ 学生の学習成果を測定するための評価指標の活用
(単位認定・学位授与・卒業判定とは別に、課程を通じた学習成果の把握状況)
例) 外部の標準化されたテスト (CBT、OSCE 等)、自前の基礎学力テスト、ルーブリック、学修ポートフォリオ等
- ・ 国家試験合格率、就職率、英語教育充実の成果、論文発表等

〈1〉 大学全体

- 1) 学生の学習成果を測定するための指標として、学部学生は、国家試験合格率と就職率、大学院学生は、学位論文の質を重視している。
- 2) 各学部の国家試験合格率、就職率は、毎年、全国平均を大幅に上回っている。
(資料4-4-1 順天堂ホームページ 「国家試験・教員採用試験・就職内定率」)
- 3) 学位記授与数、学部卒業生数を、毎年度、事業報告にまとめ、ホームページに公表している。
(資料4-4-2 平成26年度事業報告 「12. 学位記授与数」、「13. 学部卒業生数」)

〈2〉 医学部

- 1) 本学部においては、医師国家試験合格率が全国国公立大学80校中、過去5年間平均が3位・10年間平均が第2位という高い合格率であることから、教育目標に沿った成果が上がっていると言える。(資料4-4-3 医師国家試験合格率推移)
- 2) 全学年での担任制や、Zone 担当講師会・BSL 担当講師会を通じて、教員全体で学生の現況を把握し、必要に応じ個別に支援を行っており、留年をする学生は少ない。
(資料4-4-4 留年数)
- 3) グローバル化する国際社会における諸問題に多面的な視点から対処し、解決できる能力と未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を身につけることを目的として、1年次から、「TOEFL」、「IELTS」を始めとする「英語教育」や、医学とは何かというもっとも根本的なことを学ぶ「医の人間学」を開設し、英語力の向上や豊かな人間性を持つ医師を養成するための準備学習として、順調な成果を上げている。2年次以降についても英語講義時間を増やし、国際化への対応を進めている。特に英語力に関しては、客観的な評価 (TOEFL) において、成績が向上している。また、全ての内容を英語で学ぶ講義「Medical Biology in English」を開講している。(資料4-4-5 M1 TOEFL 成績)

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 本学部では250名程度の学生が中高保健体育教員一種免許を中心とした免許・資格を取得している。(資料4-4-6 免許・資格取得者数)
- 2) 4年生の3月末時点での就職状況を見ると、ほとんどの学生が企業・教員・公務員のそれぞれに内定しており、就職率は極めて高い(資料4-4-7 卒業生の進路)。なお大学院進学を希望する成績優秀者に対しては、大学院科目の履修を一部可能とし、大学院における研究時間の充実と研究内容の向上を図っている。当該科目の単位は、大学院入学後に認定される。
- 3) 2013 (平成25) 年度より英語教育は「TOEFL」中心の教育を行っている。習熟度別のクラス

第4章 教育内容・方法・成果

4) 成果

による授業や、成績優秀者に対する表彰制度を設け、スコアアップに取り組んだ結果、2013（平成25）年度については春期の平均点410点から秋期439点へ、2014（平成26）年度については春期405点から秋期441点へとそれぞれ伸ばすことができた。

<4> 医療看護学部

- 1) 教育上の効果を測定するために、教員による科目評価・実習評価、実習指導者による実習評価を行っている。特に看護技術の習得に関しては、実習委員会が卒業前に学生の希望に沿って技術演習を実施し、就職前の学生の技術向上を支援している。実習における技術経験項目を97項目設定し、達成度を3段階で、また経験の段階を4段階で評価し、次年度の実習のあり方の検討に役立てている。
- 2) 国家試験は以下のとおり、看護師、保健師、助産師とも高い合格率を示している。

年度	看護師		保健師		助産師	
	全国平均	本学部	全国平均	本学部	全国平均	本学部
2012（平成24）年度	88.8%	96.2%	96.0%	98.6%	98.1%	100%
2013（平成25）年度	89.6%	98.5%	86.5%	94.8%	96.9%	100%
2014（平成26）年度	90.0%	99.5%	99.4%	100%	99.9%	100%

- 3) 就職希望者は100%就職できている。86.3%が本学医学部附属病院に就職している。就職希望者全員が看護専門職として就職している。このことは、本学部が学生のニーズに応え、質の高い教育を提供していることを示している。

（資料4-4-8 平成26年度事業報告（資料編）卒業後の進路状況）

- 4) 2013（平成25）年度より英語教育は「TOEFL」中心の教育を行っている。成績優秀者に対する表彰制度を設け、スコアアップに取り組んでいる。その結果、2014（平成26）年度1年生の平均点は春期403.0点から秋期411.0点へと伸ばすことができた。

<5> 保健看護学部

- 1) 2014（平成26）年度に第2回生118名が卒業し、国家試験合格率は看護師96.6%（114名合格/118名）、保健師100%であった。
- 2) 就職希望者は100%就職できている。52.5%が本学医学部附属病院に就職している。このことは、本学部が学生のニーズに応え、質の高い教育を提供していることを示している。なお、全体の36.4%が地元の本学医学部附属静岡病院へ就職しており、これを含め、66.1%が地元静岡県の医療機関等へ就職している。

（資料4-4-8 平成26年度事業報告（資料編）卒業後の進路状況）

- 3) 平成26年度卒業生（第2回生）118名のうち7名が保健師として県市町へ就職している。
- 4) 2013（平成25）年度より英語教育は「TOEFL」中心の教育を行っている。成績優秀者に対する表彰制度を設け、スコアアップに取り組んだ結果、2014（平成26）年度1年生の平均点は春期386.4点から秋期405.9点へと伸ばすことができた。

<6> 大学院医学研究科

- 1) 修士課程では、医学以外の教育を受けた学生を受け入れ、医学・生命科学・医療学の知識を系統的に修得し、生涯にわたって医科学と向き合う姿勢、能力を涵養することを目的としている。2014（平成26）年度は、修士課程開設から2年が経過し、初めての学位授与を行った。休学中の1名を除き、修士課程1期生全員が修士（医科学）の学位を取得した。

第4章 教育内容・方法・成果

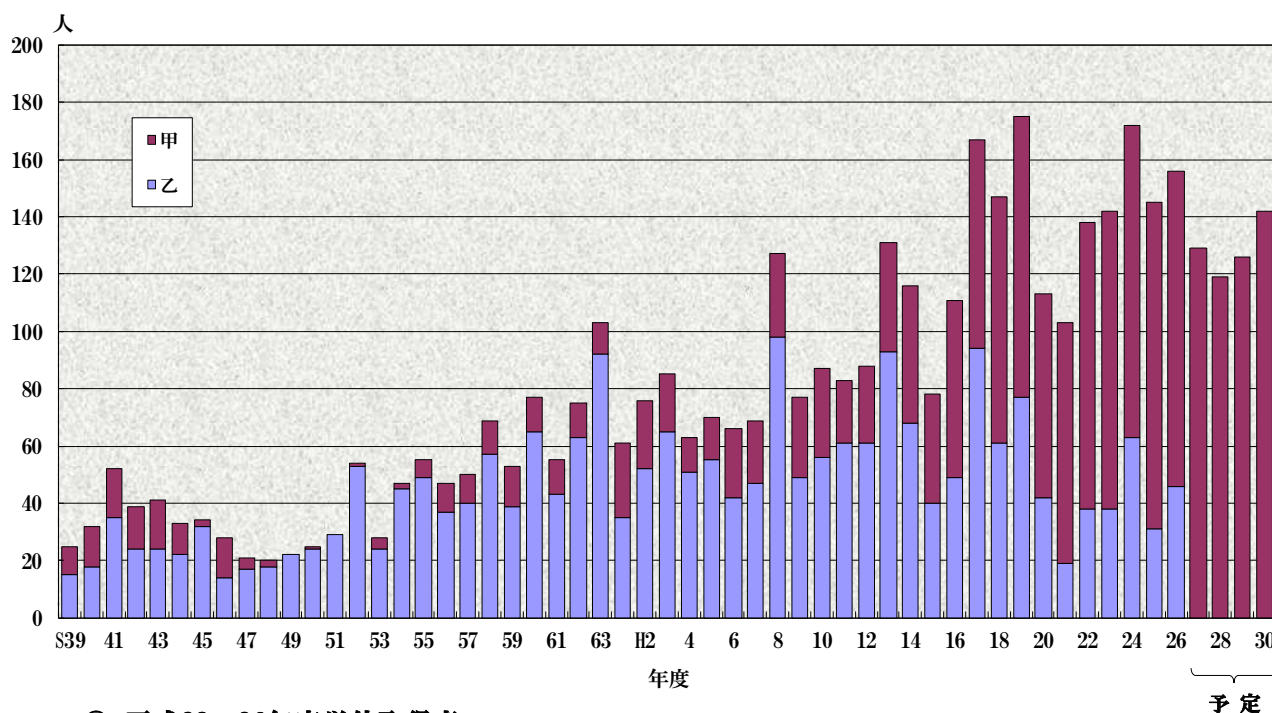
4) 成果

- 2) 博士課程では、学位授与率が非常に高いのが特徴である。これは大学院生一人ひとりについて日常的なチュートリアル研究指導が十分なされていることの証左である。また、各年次の学修進捗度評価と3年次ポスターセッションにおける研究成果の中間評価の2つの評価システムが高い学位授与率を支えている。なお、ポスターの作成及び発表については英語で行うことを原則としており、国際的な研究者としてのプレゼンテーション能力の向上を図っている。
- 3) 大学院生の学修・研究環境を支援するため履修管理システム（研究進捗ポートフォリオシステム）を導入している。履修計画の作成や最新の講義日程の確認、講義資料のダウンロード、補講動画の視聴等の利用だけでなく、在学中の学修実績・研究業績（資格取得、論文発表、学会発表、研究費の獲得、受賞、特許出願など）の情報を蓄積するポートフォリオ機能を備えている。
- 4) 教育・研究環境等が充実しており、発表される研究論文は、国際的に高い評価を受け、インパクト・ファクター（IF）やサイテーション・インデックス（CI）の高い論文が数多く発表されている。また、博士（医学）の学位授与者も下図のとおり増加傾向にある。

平成27年 3月

順天堂大学博士（医学）学位授与者数推移

甲 1,650号 乙 2,342号 （計：3,992号）



◎ 平成23～26年度学位取得者

甲論文(英文91.1%) 平均IF ≒ 3.08

乙論文(英文78.7%) 平均IF ≒ 2.84

<7> 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 修士論文については、学会誌・学術誌（「順天堂スポーツ健康科学研究」を含む）への投稿を原則としている。
- 2) 博士前期課程における2011（平成23）年度～2014（平成26）年度の進路状況は、教員30%、企業40%、進学10%程度となっている。

第4章 教育内容・方法・成果

4) 成果

(資料4-4-9 スポーツ健康科学研究科の進路状況)

3) 博士後期課程の学位取得については、2011(平成23)年度は、甲種1名、乙種0名であったが、年々増加傾向にあり、2014(平成26)年度は甲種8名、乙種3名となった。

(資料4-4-10 スポーツ健康科学研究科博士後期課程の学位取得者数)

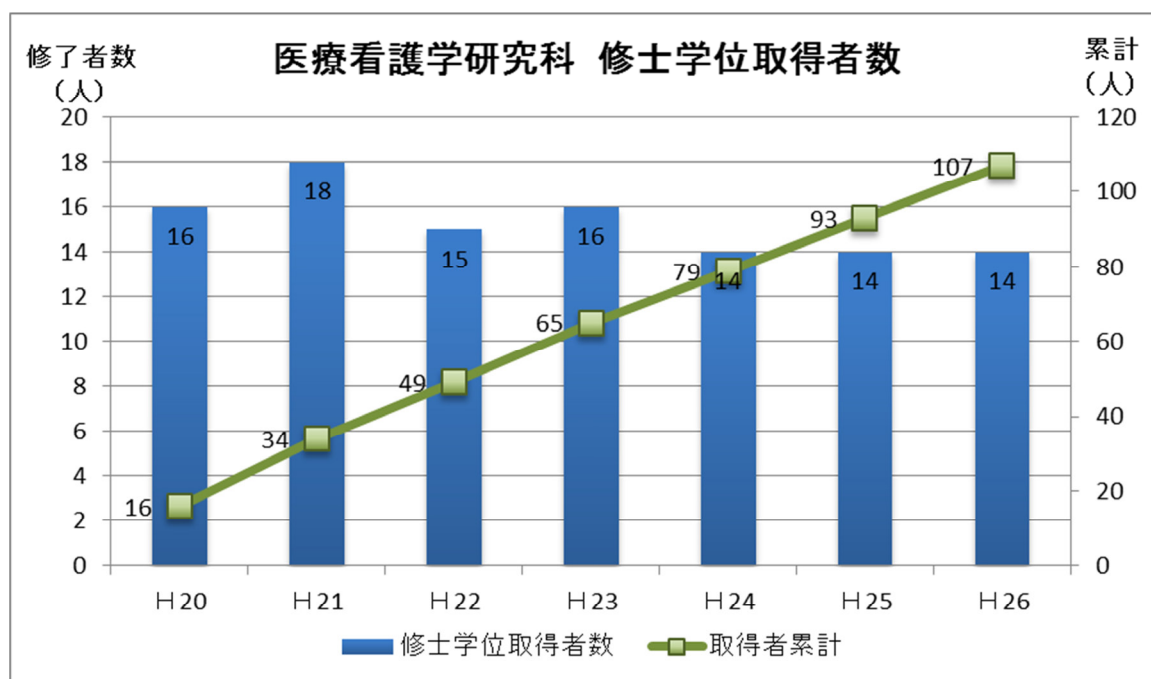
＜8＞ 大学院医療看護学研究科

1) 看護学分野における研究能力に加えて高度な実践力を修得することから、修了後それぞれが臨床、教育の場で活躍している。修了後の学生の進路は以下のとおりである。

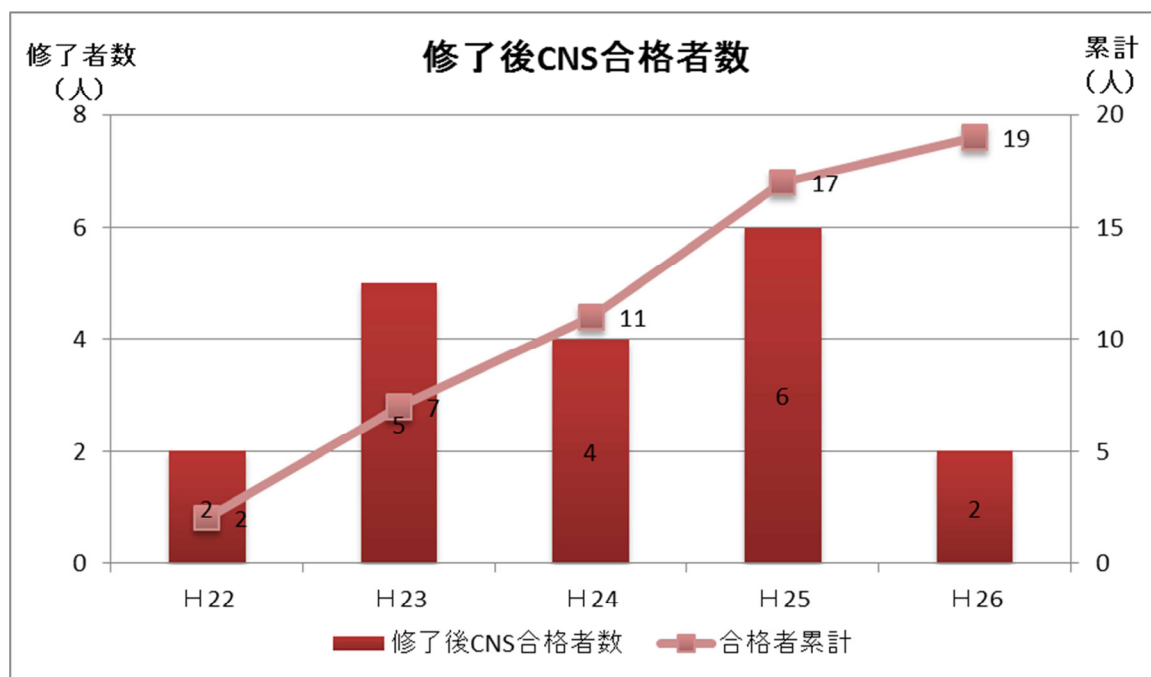
年度	修了者数	臨床		地域	教員		進学
		順天堂	他施設		順天堂	他校	
2011(平成23)年度	16	7(1)	4(1)			5	
2012(平成24)年度	14	11(7)	1(1)		1	1	
2013(平成25)年度	14	8(3)	1(1)	1		2	2
2014(平成26)年度	14	6(5)	5(1)	2		1	

()内は、専門看護師 CNS コース課程修了者

2) 本研究科の修士学位取得状況は2014(平成26)年度に14名となっており定員15名に対し平均15.2名で推移しており、累計で107名と着実に学位取得者を輩出している。



3) 2010(平成22)年度に初めての本研究科修了生が慢性疾患看護の専門看護師に認定され、2014(平成26)年度に2名と下図の通り、累計で19名が専門看護師に認定されている。なお、分野別では慢性疾患看護9名、がん看護5名、感染症看護2名、老人看護1名、小児看護2名の認定数となっている。専門看護師コースの分野増に比例して、年間認定者は増加している。



(2) 学位授与 (卒業・修了認定) は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ・学位授与基準、学位授与手続きの適切性
- ・卒業試験 (学部)
- ・学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (大学院)

〈1〉 大学全体

- 1) 「順天堂大学学位規程」を制定し、本学が授与する学位の種類、各学位の授与要件、学位論文の審査基準を定めている。(資料4-4-11)
- 2) 各学部の卒業に必要な単位数の明示状況、各研究科の課程修了要件、学位論文審査基準及び博士の学位授与プロセスの明示状況は以下のとおりである。

〈2〉 医学部

- 1) 進級及び卒業判定は、各学年における個別試験・総合試験の結果、体験実習・実験実習・臨床実習・共用試験 (OSCE, CBT) など (以下「試験等」という) の評価、医学生としての態度・モチベーション、健康状況等を総合的に評価して、進級 (卒業) 判定会及び教授会で審議し、学長が決定している。(資料4-4-12 進級判定基準)

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 本学部の卒業は、学科毎に設定された「必修」「選択必修」科目についての要件を満たし、合計 124 単位以上を修得する事により認定される。「スポーツと健康に係わる知識・能力の育成」という共通目標の下で、学科ごとに設定された必修、選択必修の単位数については、学科により若干の差はあるものの、概ね必修 40 単位程度、選択必修 55 単位程度となっている。(資料4-4-13 スポーツ健康科学部 学科別卒業所要単位数内訳)
- 2) 卒業のために満たすべき要件は、年度初めに実施されるガイダンスにおいて配布される履修計画表に明示されているほか、教務システム (Juntendo-Passport) において各自の成績を

第4章 教育内容・方法・成果

4) 成果

参照する際にも、領域ごとに必要単位数と修得単位数が明示されている。さらに学科ごとの必修科目、選択必修科目については、ホームページ上においても公開されている。

- 3) 卒業の認定は、教務システム（Juntendo-Passport）による卒業要件の自動チェックに加え、教務委員会での確認を経て、教授会で審議される。4年生に対しては出席条件を満たしていることを条件に10単位程度まで再試験の対象としている。再試験で合格点に達しなかった場合、必要な知識を携えた上での卒業を保証するため特別試験が実施されることがあるが、実施については教授会で審議される。

<4> 医療看護学部

- 1) 本学部を卒業するには、4年以上在学し、看護師課程は124単位以上、看護師・保健師選択課程は130単位以上、看護師・助産師選択課程は138単位以上、看護師・保健師・助産師選択課程は146単位以上を取得し、卒業試験に合格することが必要である。教授会の審議を経て、学長が卒業資格の認定を行っている。この認定を得た者に卒業証書・学位記を授与している。

<5> 保健看護学部

- 1) 本学部を卒業するには、4年以上在学して、所定の授業科目を履修し、その単位を取得したうえで、卒業試験に合格した学生について、教授会の議を経て学長が卒業を認定している。
- 2) 卒業判定、学位授与は「学則」、「順天堂大学保健看護学部単位認定評価に関する規程」に基づき教務委員会、教授会において慎重に審議されている。（資料4-4-14）
- 3) 卒業試験は、「卒業試験実施要項」を教務委員会で作成し、教授会で承認された後、この要項に則って適切に実施されている。（資料4-4-15）

<6> 大学院医学研究科

- 1) 本研究科の学位授与（卒業・修了認定）は、大学院検討委員会・医学研究科委員会において慎重に検討されており、学位授与可否は医学研究科委員会における無記名投票にて行っている。
- 2) 学位審査は公開制を導入している。傍聴資格は、本学教員、大学院生、主査が認めたものとし、傍聴者の発言は主査の許可を受けるものとしている。また、学位審査委員（主査・副査）について、指導教員及び論文共著者は対象外とするほか、学外審査委員の登用を行うなど、学位審査における透明性・客観性を高めている。
- 3) 博士課程において、優れた研究業績を上げた学生については、所定の要件を満たすことで3年修了を可能としている。2014（平成26）年度入学者より、学位論文一篇による3年修了申請について、掲載雑誌のIFの条件を「3以上」から「4以上」に引き上げ、学位審査の厳格性をより強固なものとした。

（資料4-4-16 大学院3年修了の要件に係わる大学院医学研究科委員会申合せ事項）

<7> 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 本研究科の学位授与は、大学院教育・研究委員会、研究科委員会において慎重に検討されている。学位論文作成に際しては、公開による研究計画報告会を開催するなどチェック段階をいくつか設けることにより論文作成指導を徹底し、審査に際しては最終試験に至るまで、慎重な審査を行っている。
- 2) 博士前期課程の学位授与は、30単位の取得と修士論文の審査合格により授与されるが、一年次に主要学会誌に掲載されるなど、優れた研究成果を上げた学生については、当該の論文を

第4章 教育内容・方法・成果

4) 成果

修士論文の代用として1年修了が可能である（早期修了制度）。

- 3) 博士後期課程の学位授与に関して、優秀な学生については、以下の3条件のうちいずれか一つを満たすことを条件として、2年修了が可能である（早期修了制度）。
 - (1) 英語で公刊される歴史と権威ある学術誌に、掲載又は受理された論文1篇の第一著者
 - (2) 国内外の国際学会誌に掲載された英語による論文の1篇又は、国内の権威ある学術誌に掲載もしくは受理された論文1篇の、いずれか一方の第一著者
 - (3) 国内の外国語によらない権威ある学術誌に掲載又は受理された論文3篇の内、2篇の第一著者

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 本研究科の学位授与（卒業・修了認定）は、医療看護学研究科委員会において慎重に検討されており、学位授与可否は医療看護学研究科委員会における無記名投票にて行っている。
- 2) 研究科委員会に研究計画書と倫理申請書（必要に応じて）を提出することとしている。研究計画書は、研究科委員会で審議され、承認された研究計画については、研究計画発表会を公開で行っている。倫理申請書については、研究等倫理委員会で審議されている。
- 3) 博士前期課程での論文審査委員は、研究指導教員以外の他分野の研究指導資格教員から主査1名、本研究科担当教員から副査2名を決定している。博士後期課程では研究指導教員以外の本研究科委員会を構成する教授から主査1名、本研究科内外から副査2名を決定することで、学位審査における透明性・客観性を高めている。
- 4) 論文審査過程の透明性・客観性を期すため、主査及び副査は、論文審査結果の要旨（論文の特徴、価値など）や先行研究に関するレビュー、テーマ設定、テーマに見合った方法論の適切性、論理性のある論旨の展開、質疑に対する応答の概要と適切性などを記した審査報告書を研究科委員会に提出している。
- 5) 審査報告書をもとに学位申請者が修士の学位を授与するに相応しい専門的知識と研究能力を有しているか否かの判断を研究科委員会で審議し、学長が修了認定を行っている。この審査過程で直接指導にあたらなかった教員も、論文の概要や審査のプロセスを詳細に知ることができる。
- 6) 博士前期課程では、将来、専門看護師認定試験を志望する者については、特別研究に代えて課題研究を行うこととしている。課題研究は、主に実践フィールドを通して、研究課題を解明する過程を導くこととしている。課題の水準および課題を追求するための研究方法等については、修士論文と同様としている。

2. 点検・評価

[基準4]

大学は、その理念・目的を実現するために、教育目標を定めこれに基づき学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を明示しなければならない。また、こうした方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、学位授与を適切に行わなければならない。

●基準4の充足状況

学生の学習成果の把握として、学部学生は、国家試験合格率と就職率、大学院学生は、学位論

第4章 教育内容・方法・成果

4) 成果

文の質を重視している。各学部の国家試験合格率、就職率は、毎年全国平均を大幅に上回っている。大学院医学研究科では、インパクト・ファクター (IF) やサイテーション・インデックス (CI) の高い学位論文が数多く発表されている。

学位授与については、学位授与要件、学位論文の審査基準を学位規程に明示しており、教授会、研究科委員会において厳格な運用がなされている。大学院の学位審査は、公開制としており、学外審査委員を登用するなど、客観性を確保している。優れた研究業績をあげた学生については、早期修了制度を設けている。以上のことから、本基準を充足している。

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

- 1) シラバスに則した教育を行うとともに、担任制やアドバイザー制による指導等により、高い国家試験合格率や就職率を達成している。
- 2) TOEFL の必修化等、国際化に対応する取り組みが進められ、表彰制度も整備しており、学生の英語学習意欲が向上し、TOEFL スコアアップにつながっている。
- 3) 本学の教育研究活動の成果が国際的に認められ、英高等教育情報誌タイムズ・ハイアー・エデュケーションのアジア大学ランキング 2014 において第 63 位に評価された。本学は、日本の私学でランクインした 3 校のうちの 1 校である。

(資料 4-4-17 2014 (平成 26) 年 6 月 20 日 産経新聞「アジア 100 大学・英誌ランク」)

〈2〉 医学部

- 1) 医学部における重要な評価指標となる医師国家試験合格率は、過年度より全国的に高い合格率を示している。また、各年度において留年者数は少なく、修業年限卒業率は高い。以上のことより、学生には 6 年間を通じて充実した教育内容が提供されている。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 企業就職内定率は 2011 (平成 23) 年度 99.3%、2012 (平成 24) 年度 98.6%、2013 (平成 25) 年度 98.6%、2014 (平成 26) 年度 99.3% といずれも全国平均を上回っている。また、少子化等により保健体育科教員の採用環境が厳しい中、現役生の中から毎年 30 名以上の教員採用試験 (国公立) 合格者を輩出している (国公立補欠合格者を含む)。

(資料 4-4-18 スポーツ健康科学部企業就職者の内訳)

(資料 4-4-19 教職者の内訳)

〈4〉 医療看護学部

- 1) シラバスに則した教育が実践されており、看護師、保健師、助産師国家試験において、前掲 1. (1) 〈4〉 2) の表のとおり、高い合格率を示しており、教育と指導の効果が上がっている。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 2 年間の国家試験合格率は次の通りであり、本学部における教育効果が証明された。

【看護師国家試験】

年度	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
平成 25 年度	114	114	100.0%	89.6%
平成 26 年度	118	114	96.6%	90.0%

第4章 教育内容・方法・成果

4) 成果

【保健師国家試験】

年度	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
平成 25 年度	114	108	94.7%	86.5%
平成 26 年度	※120	※120	100.0%	99.4%

※既卒者 2 名を含む

- 2) 2014(平成 26)年度卒業生(第 2 回生 118 名)のうち 7 名が保健師として県市町に就職したことは、保健師教育課程を必修にしている効果があったと言える。
- 3) 留年者は、2013(平成 25)年度 4 年生(第 1 回生)は 1 名、2014(平成 26)年度 4 年生(第 2 回生)は 0 名と、低い留年率を維持している。

〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 修士課程では、主に、1 年次前期に基礎的な知識を身につける一般教育科目、1 年次後期に専門性の高い内容の専門教育科目を開講し、医学・生命科学・医療学の知識を系統的に修得できるカリキュラムを編成している。修士課程開設から 2 年が経過した 2014(平成 26)年度は、初めての学位授与を行った。休学中の 1 名を除き、修士課程 1 期生全員が修士(医科学)の学位を取得した。
- 2) 博士課程では、英語のみで行われる講義や 3 年次ポスターセッションでのポスター作成・口頭発表の英語義務化によって学生の英語力が養われている。2011～2014(平成 23～26)年度の学位(甲)論文のうち 91.1%が英語論文であり、国際的評価の高い学術誌に掲載されている。学位取得率及び学位(甲)取得者の平均 IF(2011～2014(平成 23～26)年度平均≒3.08)は高く、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に則した様々な取組みが有効に機能していると言える。また、博士課程において、高度な研究能力と豊かな学識を有する学生に対し、早期に学位を取得できる 3 年修了制度を設けており、要件をシラバスに明記している。2014(平成 26)年度は過去最多の 7 名が 3 年修了制度を利用し、全員が 3 年修了を認められた。

(資料 4-4-20 3 年次ポスターセッション案内・要領)

(資料 4-4-21 順天堂大学博士(医学)学位授与者数推移)

(資料 4-4-16 大学院 3 年修了の要件に係わる大学院医学研究科委員会申合せ事項)

〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 博士前期課程において、2011(平成 23)年度の修了予定者から 16 名(24.2%)の中途退学者を出したことに対応するため、研究指導教員以外から指導・助言を受ける機会を従来の「研究計画報告会」、「中間報告会」の 2 回から、必修授業「研究論文作成の基礎と展開」の課題としてのポスター発表(1 年次 9 月)を加え、3 回にしたことにより、2011(平成 23)年度に 16 名いた退学者は 2014(平成 26)年度には 0 名にとり、標準年限内修了率も 97.9%と改善した。また早期修了制度利用者も 2011(平成 23)年度、2012(平成 24)年度、2014(平成 26)年度にそれぞれ 1 名ずつ出ている。

(資料 4-4-22 博士前期課程退学者数と標準年度内修了率)

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 博士前期課程 2 年間で学位取得率は 2011(平成 23)年度は 100.0%、2012(平成 24)年度は 100.0%、2013(平成 25)年度は 93.3%、2014(平成 26)年度は 100.0%と高い水

第4章 教育内容・方法・成果

4) 成果

準である。

3. 将来に向けた発展方策

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

- 1) 定期的な学習効果測定をもとに、きめ細かな指導を継続することにより、高い国試合格率や就職率を維持していく。
- 2) TOEFL 中心の教育を維持し、大学全体を挙げて英語力アップを図り、国際化に対応していく。
- 3) タイムズ・ハイヤー・エデュケーションのアジア大学ランキング 2015 においても評価されるよう、質の高い教育研究を実践していく。

〈2〉 医学部

- 1) 学問の本質的な理解を前提としながら、継続して国家試験も見据えた講義・演習・実習を展開する。4年次に行われる共用試験（OSCE、CBT）において、臨床実習における必要知識・技能の確認を行い、合格をしない場合、実習を認めないこととしており、教育成果の水準を確保していく。また、世界医学教育連盟（WFME）の国際認証を取得すべく受審準備を進めている。求められるアウトカム基盤型教育、コンピテンス基盤型教育への転換を図っていく。医師としての態度・技術・学習能力を評価することから、知識の修得に留まらず、知識の応用ができるよう、少人数で学生が主体的に参加する双方向授業を展開し、学修効果を高めるようにしていく。

〈3〉 スポーツ健康科学部

- 1) 企業就職内定率については、経団連の指針により就職活動自体の変更が予測されるが、現状の高水準を維持させるため、総合講座等を活用するなど柔軟に対処していく。また、現役教員採用試験合格者数を維持・向上させるため、教職科目のシラバスと学習指導要領とのマッチングを実施するなどの再点検を行う。

〈4〉 医療看護学部

- 1) 段階的に理解を深められるよう授業の質を高めるとともに、アドバイザー教員を中心とした指導や国家試験対策講義、ガイダンスを継続して、各資格とも高い合格率を維持する。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 高い国家試験合格率を維持するよう、個々の学生の特性を把握し、特に、下級学年次からの成績不良学生は徹底した、きめ細かな学習指導を継続して行う。
- 2) 地域に貢献する保健師を輩出すべく、保健師教育課程必修を維持する。
- 3) 4年次には全員が卒業し、全員が国家試験受験できるよう、4年次までに低学力者の学習指導を行い、毎年度、規程に沿った進級判定を継続していく。

〈6〉 大学院医学研究科

- 1) 修士課程において、カリキュラムの見直しや研究指導体制の検討等を継続して行いながら、より質の高い教育研究を実践していく。
- 2) 国際的に活躍する医師を養成すべく開講している国際医学教育塾を更に拡充・発展させるとともに、今後、英語による講義を更に増加させるなど、学生の英語力向上への取組みを継続的に実施し、国際的に評価の高い医科学雑誌により多くの学位論文が掲載されるよう

第4章 教育内容・方法・成果

4) 成果

指導していく。

〈7〉 大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 博士前期課程において、本郷・お茶の水クラスの学生に対しては研究指導教員以外の教員からも指導を受けられる機会を増やし、集団指導体制を一層推進するとともに、メール、SNS、VTR 配信等 ICT を活用し指導を充実させる体制を整える。これらの施策により標準年
限内修了率を更に高め、早期修了制度が利用できるような研究業績を持つ学生の数を増加
させる

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 博士前期課程では、引き続き、学位の質を保ちつつ、学生の個別研究テーマに沿った丁寧な研究指導を行い、高い学位取得率を維持する。2014（平成 26）年度開設の博士後期課程では、2 年次の研究経過発表会において研究活動の進捗状況を確認するとともに博士論文について質の高い指導を実践していく。

第4章 教育内容・方法・成果

4) 成果

4. 根拠資料

根拠資料No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
資料4-4-1	総務4-4-1	順天堂ホームページ 「国家試験・教員採用試験・就職内定率」 http://www.juntendo.ac.jp/department/success.html
資料4-4-2	総務4-4-2	平成26年度事業報告書 「12. 学位記授与数」、「13. 学部卒業 者数」
資料4-4-3	医4-4-1	医師国家試験合格率推移
資料4-4-4	医4-4-2	留年数
資料4-4-5	医4-4-3	M1 TOEFL 成績
資料4-4-6	ス4-4-1	免許・資格取得者数
資料4-4-7	ス4-4-2	卒業生の進路
資料4-4-8	医看4-4-1	平成26年度事業報告（資料編） 「卒業後の進路状況」
資料4-4-9	院ス4-4-1	スポーツ健康科学研究科の進路状況
資料4-4-10	院ス4-4-2	スポーツ健康科学研究科博士後期課程の学位取得者数
資料4-4-11	総務4-4-3	順天堂大学学位規程（既出 資料4-1-1）
資料4-4-12	医4-4-4	進級判定基準
資料4-4-13	ス4-4-3	スポーツ健康科学部 学科別卒業所要単位数内訳
資料4-4-14	保看4-4-1	順天堂大学保健看護学部単位認定評価に関する規程 （既出 資料4-3-31）
資料4-4-15	保看4-4-2	卒業試験実施要項
資料4-4-16	院医4-4-1	大学院3年修了の要件に係わる大学院医学研究科委員会申合せ 事項（既出 資料4-3-34）
資料4-4-17	総務4-4-4	2014（平成26）年6月20日 産経新聞「アジア100大学・英誌 ランク」
資料4-4-18	ス4-4-4	スポーツ健康科学部企業就職者の内訳
資料4-4-19	ス4-4-5	教職者の内訳
資料4-4-20	院医4-4-2	3年次ポスターセッション案内・要領（既出 資料4-3-8）
資料4-4-21	院医4-4-3	順天堂大学博士（医学）学位授与者数推移 （既出 資料4-3-48）
資料4-4-22	院ス4-4-3	博士前期課程退学者数と標準年度内修了率